

今も受け継がれて いるもの

石崎地区では、装束に身を包んだ地元の若者や小学生などが、長さ4mの槍などを担いで町内を練り歩く「石崎奴」が行われています。

今年の石崎奴は昨年と同じく8月13日に実施されましたが、この日に向けて地域の大人が小学生の練習を手伝うなど、地域ぐるみで伝統が伝えられています。

参加した方からは「人が少なくなってきたことなど課題もあるが、これからも石崎奴を守っていききたい」と地域の伝統を守る熱意に溢れていました。



思い出に残る1日

8月4日、北海道日本ハムファイターズが招待する応援観戦ツアーが行われ、抽選で選ばれた50組100名の方々が参加しました。

札幌ドームへ到着したあと、バックネット裏からファイターズの練習を見学し、その後グラウンドへお入りしてベンチへ案内されると、上ノ国町応援大使である武田勝選手が登場し、参加者と記念撮影を行いました。

武田勝選手は登板しませんでしたでしたが、参加した方々は普段経験できない内容に大変喜んでおりました。

子どもたちに 熱血指導！

北海道日本ハムファイターズのマスコット「B・B」が8月20日、「212物語」の撮影のため、上ノ国町を訪問しました。

B・Bは、2004年北海道日本ハムファイターズ誕生当時の全道212市町村を10年間で訪ねて訪問しています。この日は、文化財施設や夷王山山頂など町内各所を撮影した後、ジョイ・じよぐらで交流会を開催し、多くの方々と交流を深めておりました。

この日撮影された内容は、9月22日に札幌ドームで行われる試合開始前に大型ビジョンで放映されます。



海上での救助に 備えて

8月24日、水難事故発生時の救助技術向上を目的とした、日本水難救済会上ノ国救難所主催による水難救助訓練が、汐吹漁港において実施されました。

訓練前の挨拶では、市山所長から「水難防止の啓蒙に全力で取り組む」との言葉があり、漁業者にとって隣り合わせである水難事故について注意喚起がされたほか、来賓の挨拶で、江差海上保安署長から松前町で起きた夜間水難事故の話があり、地域の海岸を熟知した人による救助の必要性と日頃の訓練の重要性が述べられました。

訓練は救助索発射や人工呼吸などの救命措置が重点的に行われ、参加した組合員22名は真剣な表情で訓練に臨んでいました。

